

自然談話における宮古島池間方言の *nyaan* について -使用頻度に基づく意味機能拡張の仮説-

呉 唯 (東京外国語大学 博士前期課程)

wuwe19910307@gmail.com

1. 本発表の目的

池間方言では、否定動詞 *nyaan*(1)が文法化を経てアスペクトを表す補助動詞(2)に変化するという現象が観察されてきた (林 2013)。またさらに、補助動詞用法の *nyaan*(以下 NYAAN 形と呼ぶ)のアスペクト的な意味(2)から「非実現バイアス」¹の意味(3)に拡張したことも指摘されている。

(1) *avva=a nyaa-n doo.*

油=TOP NYAA-NEG.NPST SFP

「油はないよ。」

(2) *saki=u num-i-i nyaa-n.*

酒=ACC 飲む-THM-MED NYAA-NEG.NPST

「お酒を飲み終わった。」

(3) *seemon+gawa=n bij-i-i ui nyaa-n yo. agai na*

正門+側=DAT 座る-THM-MED PROG NYAA-NEG.NPST SFP 嫌だ SFP

「(あの人達が)正門側に座ってしまったね。困ったな。」

そこで、本発表では、池間方言の自然談話資料に基づいて、アスペクト的な意味(2)から非実現バイアスの意味(3)へ意味拡張した動機を探ることを試みる。

2. NYAAN 形のアスペクト的な意味について

NYAAN 形は出来事の終了以降(結果)の局面を取り出すアスペクト形式であるとしばしば指摘されてきた (林 2013、名嘉真 1992 など)。池間方言における、出来事の終了以降の局面を取り出すアスペクト形式は NYAAN 形以外に、補助動詞 *ai* (以下は AI 形と呼ぶ)を用いた構造がある。

(4) *hana=nu ut-i-i ai.*

花=GN/NM 落ちる-THM-MED AI

「花が落ちてある。」

(5) *hana=nu ut-i-i nyaa-n.*

花=GN/NM 落ちる-THM-MED NYAA-NEG.NPST

¹ 「非実現バイアス」について、下地 (2016)では「実現しなかった方がいいという話者の評価」と定義されているが、本発表では、「実現しなかった方がいいという話者の評価」に加え、「話者のマイナスの感情・評価あるいは事態が予想を超えたことに対する驚きなど」も含めた広い意味として捉える。

「花が落ちている。」

両形式の意味の違いは、インフォーマントによると、(4)では地面に落ちている花を見ながら発することができるのに対して、(5)ではそれが難しく、花が落ちてしまった木を見ながらの発言として成立すると言う。その原因は、おそらく語彙資源となる *ai* 「ある」と *nyaan* 「ない」という存在と不在の意味が AI 形と NYAAN 形の中に残っているため、AI 形は残存局面、NYAAN 形は消失局面に着目しているためであると考えられる。

また、下地 (2016)²では、両アスペクト形式と動詞の共起関係について、「消失性」に着目し、「消失動詞」「準消失動詞」「出現動詞」「その他の動詞」という動詞分類を用いて、考察を行っている。考察の結果を表 1 にまとめる。

表 1: アスペクト形式と動詞の語彙的性質(消失性)³

	消失 NYAAN	残存 AI
消失動詞(e.g. <i>kyaar</i> 「消える」 <i>kyaas</i> 「消す」)	◎	△
準消失動詞(e.g. <i>fsar</i> 「腐る」 <i>mdar</i> 「壊す」)	○	○
出現動詞(e.g. <i>nmarir</i> 「生まれる」 <i>nas</i> 「生む」)	△	◎
その他(e.g. <i>bzz</i> 「座る」 <i>miir</i> 「見る」)	△	△

(下地 2016: 8 表 4 より、発表者作成)

3. 非実現バイアスの意味について

下地 (2016)では、非実現バイアスの意味に関して、消失動詞以外の動詞と組み合わせる場合、NYAAN 形は必ず非実現バイアスの意味を表すと述べている。

さらに、アスペクト的な意味から非実現バイアスの意味に拡張する原因については、「準消失動詞 +NYAAN (例: *fsarii nyaan* 「腐った」)の場合、語彙の意味にみられる正常な機能の消失局面が取り出されるため、自ずと非実現バイアスがかかった意味になる。」(下地 2016: 10) と言う。

4. 調査

以上述べてきたように、NYAAN 形がアスペクトの意味を表すのか、非実現バイアスを表すのかはどの動詞と組み合わせるのかということに深く関わっている。そのため、発表者は池間方言の自然談話の資料を調

²下地 (2016)では同じ宮古語に属する伊良部方言における *nyaan* の文法化や意味拡張について詳細な記述がなされているため、本発表では下地 (2016)の記述も参照する。

³下地 (2016)によると、◎は、話者が例文提示を躊躇なく行え、テキスト中の出現頻度が最も高い。○は、話者が例文提示を躊躇なく行えるが、テキスト頻度は◎ほど高くない。△は、話者が例文提示をためらう場合があり、テキスト頻度も低い。

査し、NYAAN 形と共起する動詞及び共起した際に実現した意味について考察を行った。

4.1 談話資料について

調査で用いた談話資料は 2006 年~2015 年の間に大野剛氏⁴によって収集されたものであり、これは主に宮古島平良地区及び池間島在住の話者の協力のもとで作成された資料である。談話資料の中には、複数の話者が話し合う会話資料のファイルが 17 個、一人の話者が語るナラティブ資料のファイルが 55 個ある。談話資料の総時間数は約 3 時間 40 分である。主な内容は、昔の職業や学生時代の思い出やお祭りなどについてである。

4.2 調査方法

用例抽出において、文字起こしした資料から、'nyaa'をキーワードとして用例検索を行った。また、本動詞と区別するため、動詞の中間動詞形(接辞-iにつく形)の後の *nyaan* の用例を取り出した。なお、明らかに慣用句的な表現や主動詞が実際の動作あるいは状態を現さない場合については今回の調査結果から除外した。以下にその例を示す(全 2 例)。

(6) *kunukya=ga* *otoo=mai* *kaachan=mai* *mmya*

この人達=NOM お父さん=も お母さん=も もう

kannar-i-i

nyaa-n...

神なる-THM-MED

NYAA-NEG.NPST

「(lit.)この人達がお父さんもお母さんももう神になってしまった(死んでしまった)...」

(7) *konma* *ti* *ai+kyaa* *mmya* **migama-i-i** ***nyaa-ddan***

コンマ と 言う+時 もう **身構え**-THM-MED NYAA-NEG.PST

ti *h-i-i* *usu-i-i* ***nyaa-ddan*** *dara*

と する-THM-MED 隠す-THM-MED NYAA-NEG.PST SFP

「(lit.)コンマと言った時、もう身構えてしまって、として、隠してしまったよ...」

非実現バイアスの意味の判断については、前後文脈から「出来事の実現が話者の予想に反しており、話者がその出来事が実現しなかった方が良かったという評価」を表しているという点を基準にして、「非実現バイアス」にカウントした(例 8)。

(8) *sonotooji=wa* *dooro* *nyaan=niba* *yo... fufigini* *dara,* *unu*

その当時=は 道路 ない=CAUS SFP 不思議に SFP その

haani=ga *mmya* *uman* *mmya* *naugara* *cyoodo* *mmya* *dooro*

ハーニ=GN/NM もう そこに もう なんか ちょうど もう 道路

tuuh-i-i

nyaa-n=niba

mmya.

⁴ アルバータ大学教授。

通す-THM-MED NYAA-NEG.NPST =CAUS もう

「(lit.)その当時は道路ないから、不思議にそのハーニがもうそこにちょうど道路通してしまったから...」

一方で、(9)のように、前後文脈から(8)のような話者の評価を判断し得る文脈上の根拠がない場合は、「非実現バイアス」としてカウントしない。

- (9) *unu taihuu=n kakar-i-i, kanukya=a sin-i-i nyaa-n*
 その 台風=DAT 当たる-THM-MED あの人のTOP 死ぬ-THM-MED NYAA-NEG.NPST
 「その台風に当たって、あの人は死んでしまった...」

4.3 調査結果

調査した結果、補助動詞 *nyaan* の全用例数は 70 例であった(2 例は除外される)。その中で「消失動詞類」は 35 例、「準消失動詞類」は 2 例、「出現動詞類」は 12 例、「その他の動詞類」は 21 例であった。なお、以下にあげる動詞はすべて中間動詞形である。

<消失動詞類>

sinii 「死ぬ」 *miida* 「見えない」 *harii* 「離れる」 *tuii* 「取る」 *hingii* 「逃げる」 *pazikahii* 「爆発する」 *kyarii* 「消える」 *urii* 「降りる」 *ffii* 「(潮が)ひく」など

- (10) *vva=ga mii-tai munu=u mmya ui=nkai daidama tivvah-ai-i*
 2SG=GN/NM みる-PST もの=ACC もう それ=ALL 爆弾 投げる-PASS-MED
tur-ai-i=du Xkya=ga=du tu-i-i nyaa-n
 取る-PASS-MED=FOC X の人達=GN/NM=FOC 取る-THM-MED NYAA-NEG.NPST
 「貴方がみたものを、それに爆弾投げられて、(土地)取られて X の人が取った...」

<準消失動詞類>

bautfirii 「暴れる」 *darii* 「疲れる」

- (11) *kubagasa-gama=u ka-i-i f-i-i samati ti*
 クバ笠-DIM=ACC 買う-THM-MED もらう-THM-MED ください と
hugui=hii machi=u aif-u-tai=suga kubagasa-gama=a agai
 大声=INS 町=ACC 歩く-THM-PST=CONC クバ笠-DIM=TOP 大変
myaa dar-i-i nyaa-n
 もう 疲れる-THM-MED NYAA-NEG.NPST
 「クバ笠を買ってくださいと大声で町を歩いたけど、クバ笠は大変、もう疲れた。」

<出現動詞類>

fii 「知る」 *tuuhii* 「通す」 *ajjii* 「言う」 *ntii* 「満ちる」 *idii* 「出る」 *tjuffii* 「作る」 *ssaii* 「分かる」など

- (12) *konma=ga* *i* *yumi=n* *idi-i* *tt-i-i* *nyaa-n* *dara*
 コンマ=GN/NM SFP 夢=DAT 出る-MED 来る-THM-MED NYAA-NEG.NPST SFP
 「コンマ(数学の先生のあだ名)がね、夢に出てきてしまったのよね」

<その他の動詞類>

magarii 「曲がる」 *ikii* 「行く」 *bijii* 「座る」 *narii* 「なる」 *mii* 「見る」 *hugahii* 「刺される」 *kumii* 「押し込む」 *aikii* 「歩く」 *nyuvvii* 「寝る」 *kangaii* 「考える」 *nuufii* 「載せる」

- (13) *aiguri* *munu* *darai* *yamatu* *daigakusei=nu=du* *yuu*
 言いにくい もの SFP 内地 大学生=GN/NM=FOC よく
t-tai=ba *anfii* *yuuduri-gama=mai* *uttifah-i-i*
 来る-PST=CAUS そうして YUUDURI-DIM=も 写す-THM-MED
har-i-i *nyaa-ddan* *nuuf-i-i* *har-i-i* *nyaa-ddan*
 行く-THM-MED NYAA-NEG.PST 載せる-THM-MED 行く-THM-MED NYAA-NEG.PST

「言いにくいんだよね内地の大学生よく来て、そうしてユドリも写して、載せてしまう」

また、非実現バイアスが確認された例は「消失動詞類」35例のうち26例(70.2%)、「準消失動詞類」2例のうち2例(100%)、「出現動詞類」12例のうち12例(100%)、「その他の動詞類」21例のうち21例(100%)となった。

6. 考察

6.1 下地 2016 における意味拡張の仮説について

調査 II の結果から分かるように、「消失動詞類」以外の動詞類では、すべての用例で非実現バイアスの意味が付与されている。これは下地 (2016) の指摘と一致している。しかし、*nyaan* の意味拡張の中間段階とされた「準消失動詞類」は2例と少ない。もし、「準消失動詞類」が意味変化のトリガーであるならば、一定数の出現頻度が予想される。しかし、少なくとも今回のデータにおいては、その予想に反した結果となった。さらに、下地 (2016) の言う「準消失動詞類」の「正常な機能を失う側面」という意味的な特徴は、「死ぬ」「消える」などの「消失動詞類」からも取り出し得る。よって、本発表では、「準消失動詞類」は *nyaan* の意味拡張のトリガーであるとは考えにくいことを主張する。次に他の要因の考察を試みる。

6.2 話者と動作主

梁井 (2009) では、日本語標準語の「～てしまう」の意味拡張について歴史資料を用いて、計量的な調査を行った。その結果、歴史上「～てしまう」の用例の中に、話者と動作主が一致しない例が多いという。梁井 (2009) はそれが動機となりマイナスの感情・評価の意味が焼き付けられたと指摘している。よって、今回の調査結果を踏まえて、[±話者=動作主] というパラメータを用いて、用例を見直した。その結果を以下

の表 2 にまとめて示す。

表 2: 非実現バイアスと話者の関係

	話者=動作主			話者≠動作主		
	+非実現 バイアス	-非実現 バイアス	計	+非実現 バイアス	-非実現 バイアス	計
消失動詞類	2	1	3	24	8	32
準消失動詞類	1	0	1	1	0	1
出現動詞類	4	0	4	8	0	8
その他の動詞類	2	0	2	19	0	19

表 2 が示しているように、「話者≠動作主」の例が数多く見られた。その結果は梁井 (2009)で指摘されていた歴史上の言語事実と非常に類似している。そのため、本発表では話者と動作主が一致しない例が多いことが、*nyaan* の意味拡張を引き起こした重要な要因であると主張する。

7. まとめ

本発表では、自然談話資料をベースにして、NYAAN 形の使用頻度について計量的な調査を行なった。その結果、次のような 3 点の言語事実が確認された。i)消失動詞類以外の動詞と組み合わせる場合、NYAAN 形は義務的に非実現バイアスの意味が生じる。ii)従来意味拡張のトリガーとされていた「準消失動詞類」は出現頻度が低い。iii)NYAAN 形が用いられた文脈の中で「話者≠動作主」の例が非常に多い。

そこで、本発表ではデータの中に「話者と動作主が一致しない」例が最も多く観察されたことによって、それが NYAAN 形の意味拡張の重要な要因であると主張する。興味深い点は、梁井(2009)で指摘された日本語「~てしまう」の歴史上の意味拡張の過程と平行的に捉えられるということである。

[参照文献] 林由華(2013)『南琉球宮古語池間方言の文法』博士論文. 京都大学./ 名嘉真三成(1992)『琉球方言の古層』東京: 第一書房./ 下地理則(2016)「伊良部長浜方言のアスペクトと文法化—特に *nyaan* に着目して—」沖縄言語研究センター総会・発表会発表資料./ 梁井久江(2009)「テシマウ相当形式の意味機能拡張」『日本語の研究』5(1): 15-30.

[略号一覧]: -: 接辞境界/=: 接語境界 /+: 複合語内部の要素境界/ 1: 一人称/ ACC: 対格/ ALL: 方向格/ CAUS: 原因/ CONC: 逆接/ DAT: 与格/ DIM: 指小辞/ FOC: 焦点/ GN/NM: 属格/主格/ INS: 具格/ LMT: 限界格/ MED: 中間動詞形/ NEG: 否定/ NPST: 非過去/ PASS: 受動/ PROG: 進行/ SFP: 終助詞/ THM: 語基母音/ TOP: 主題